

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リカバリー堀之内			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日 ～ 令和7年 12月 25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人 (18世帯)	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日 ～ 令和7年 12月 25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者人数の平準化が進み、どの曜日も10人前後と、安定した通所状況が実現できている。	利用者保護者様との、協力体制を約8カ月かけて構築し、双方にメリットのある利用者人数の平準化が成っている。	
2	より特性の厳しい利用者様やご家庭事情の厳しい利用者様の利用日を優先的に増加させて、曜日継続の療育支援を実現させている。 継続支援による支援効果増加と、より手厚いご家庭支援に努めている。	よりお困りの利用者様の利用曜日増加要望を、優先的に受け入れる方針を約8カ月間、徹底して実施した。 個別サポート適用利用者の比率を、計画的体系的に増すフレームプランである。 利用者特性の人数比率の変化で、職員負担は増す方向であるが、前述の人数平準化と、徹底した体系的プランで、この副作用の最小化を図った。	
3	事業所送迎利用率の向上 保護者様の生活便宜を図ることはもちろんのこと、特に帰りの送りとどけに関しては、8人乗車で、利用者様将来の公共交通利用への訓練の第一段階として重要である。	R7年4月以前は、利用者保護者様のお迎えを頼む場面や、利用者保護者様のご遠慮によるお迎えも、散見されたが、半年強で、事業所送迎の利用率を各段に向上させることができた。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所建屋や設備の老朽化 利用者保護者様から、「流行りの古民家カフェみたい。」との声もあり、微妙である。 ○照明の老朽化（殆どが、放電管式照明、照明色も一つおきにバラバラ)	○無計画なLED電球の購入による、電球色の食い違い 「お化け屋敷みたい。」との利用者様の声も ○照明の設置構造が、シーリングソケットの無い、天井配線直付け構造の為、市販の安価なLED照明が設置できない。	
2			
3			